

## 興る！太子高校！！

### 修学旅行でのまなび

本年度は、「興る！太子高校！！」をキーワードに、内なる力に気づき主体的に伸ばそうとする生徒の育成を目指します。校長通信では、そうした太子高校の「今」をお伝えできればと考えています。

10月9日（月）から12日（金）の3泊4日で、2年次の生徒と一緒に修学旅行に行ってきました。今年から、東北地方を中心とした修学旅行になりました。

私は、今年度の修学旅行では、「いのち」「生きる」ということについて深く感じる体験を入れたいと思っていました。阪神・淡路大震災を経験した兵庫県ですが、あの大きな震災も、今の高校生にとっては人づてに聴いたり何かの媒体を通して見たり読んだりする「過去の出来事」になっています。まして、遠い地で起きた東日本大震災については、知識として知ってはいても、どこか自分とは関係ない出来事だと感じているのではないかと考えていました。たった7年前のことですが、「もう7年も前」になっているのではないかと。現地に足を運びその土地の風景を見たとき、きっと生徒の心には「何か」が生まれるに違いないと考えました。

卒業後、「親」になる生徒もいるでしょう。そうでなくとも誰かと深く心を通じ合わせる時は来ると思います。そのとき。大震災の場から感じた「いのち」のはかなさ、自然の力の大きさと残酷さ、復興を遂げる人の強さは、人を育てるときにも人と深く心を通じ合わせる時にも、人間の尊厳を大切に作る土台となり得ると思っています。そういう大人に成長して欲しいというのが、今回の修学旅行における私の願いでした。

修学旅行での震災学習を通して生徒達を感じたことを、少し紹介します。

・（震災が）どれほどの被害の大きさだったのか、ニュースでは聞いていたけど、実感が全くなく他人事のようにとらえていて、今回実際に被害にあった建物を見ることができて少し実感がわいてきたし、自分が（中略）巻き込まれていたらどうなっていたらと思うことができた。

・7年もたっているのにまだ災害跡がたくさんあって見るたびに悲しくなりました。この学習で地震・津波のおそろしさ、命の大切さが伝わってきました。

・実際に被災地にふれたり体験された方々のお話を聞いたりしていると、少なくとも私は、「今からでも準備できること、備えられることはしておこう。」という気持ちになりました。（中略）校長先生は、人として成長できる修学旅行にしようと言っていました。少しでも成長できたんじゃないかなと思いました。

・（いろいろな震災の見聞を通して、津波の恐ろしさに）恐怖を覚えた。しかし、我々は恐怖を覚えるだけではなくその恐怖にどう立ち向かっていくかを考える必要があり、（被災地に）行った意味になることだと思う。

・（震災は）他人事なんかでは決してなく、自分の身におこったときに、私も人のことを思いやれる人になりたいです。

・この震災学習を通して学んだことは、同情とかわかれても、地震を知らない私たち若い世代が現地へ赴き、学習することは、きっとプラスになったと思います。そして、改めて、そばにいてくれる友だちや家族の存在のありがたみを知ることができました。そして、この東日本大震災を忘れず、後世へとつないでいかなければいけないと思いました。

何よりも嬉しかったのは、「震災学習で多くのことを学んだ」こともそうですが、「学んだことや感じたことを家族と話したい」と、たくさんの生徒が書いてくれたことです。